同窓会報

鳥羽商船同窓会
〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8000
FAX (0599) 25-8016
振替口座番号 00850-6-846

同窓会会長就任の挨拶

S32N　辻　　裕

私はこのたび、はからずも鳥羽商船同窓会会長に選任されました辻裕と申します。歴史輝く母校の同窓会の会長をお引き受けすることは真（しん）に身の引き締まる思いであります。

歴代の会長さんを振り返ってみますと、小西恒蔵さん、加藤秋蔵さん、西山国三さん、神足徳三郎さん、高橋武衛門さん、西島好夫さん、和田春夫さん、落合弘明さんに続く第9代目になります。

落合先生は母校の教授として後進の指導に当たられると共に同窓会の事務局並びに会長として長年に亘って会の発展にご尽力されましたこと、まことに頭の下がる思いが致します。同窓生を代表して感謝の言葉を申しあげます。有難うございました。

私の経歴はと申しますと、昭和34年専攻科航海科を卒業、大同海運、ジャパンラインで海上勤務・陸上勤務の後、陸上の会社に移りまして、現在は業務用加湿器メーカーの「ウエットマスター」と言う会社の社長をやっております。

母校は明治14年の開校以来、実に激動多難な変遷をたどってまいりました。そして現在も独立行政法人国立高等専門学校機構より、鈴鹿高専との統合について投げかけられています。

歴史を振り返りますとこれまでも幾多の荒波を乗り越えてきたわけです。

同窓会の原点としては、まさに同窓会会則に書かれているところの目的を遂行してこそ、いかなる難問題も解決できるものと確信しております。

ここであらためて、同窓会会則を読み直してみますと第3条に「本会は次の目的を以って必要な事業を行う。1.会員相互の親睦並びに人格の向上を図る。2.常に母校と同窓会員の連絡を密にし、母校の繁栄を図り、引いては我国産業の発展に寄与する。」とあります。

私の所信と致しましては、当たり前のことではありますが、会員相互の融和と親睦、そして母校の発展に尽力することを第一と肝に銘じております。

敢えて商船系学科と工業系学科と色分けして述べさせてもらえれば、いずれも鳥羽商船の同窓生に変わりはなく、同窓生全員の交流に邁進したいと思います。

同窓会の役員、各支部長さん並びに関係者の皆さんのご支援無くしてこの大任を果たすことは出来ません。

どうか皆さんの絶大なご協力を頂きますようお願いして会長就任の挨拶と致します。

◆目　次◆

同窓会会長就任の挨拶 ・・・・・・・・・・・・・1
校長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
本部報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
理事会出席者・報告 ・・・・・・・・・・・・・・3
総会出席者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
懇親会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
会計報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
会計監査報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・6
会員の表彰 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
会員叙勲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
会員同士の結婚 ・・・・・・・・・・・・・・・・7
専攻科棟竣工記念式典 ・・・・・・・・・・・・・7
同窓生の戦争体験 ・・・・・・・・・・・・・・・7
会員の新刊紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・8
近藤真琴翁の書（和歌） ・・・・・・・・・・・・8
水先人の養成について ・・・・・・・・・・・・・8
臨時理事会までの経緯 ・・・・・・・・・・・・・9
クラスター構想の背景と主核 ・・・・・・・・・10
同窓会新役員 ・・・・・・・・・・・・・・・・11
暫定予算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
支部便り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
クラス会便り ・・・・・・・・・・・・・・・・15
学校便り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
寄付金・同窓会費納入一覧 ・・・・・・・・・・19
新入会員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
住所変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
死亡会員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・26
学生募集のＰＲ ・・・・・・・・・・・・・・・27
事務局だより ・・・・・・・・・・・・・・・・27

校長挨拶

山田猛敏

本日は平成19年度鳥羽商船同窓会本部総会ならびに懇親会に出席させていただきまして、誠にありがたく存じます。同窓会諸兄におかれましては関係各分野でご活躍され、ご壮健にお過ごしのことを何よりと存じます。また日頃の母校に対しての学生課外諸活動支援、商船漕艇大会支援、卒業祝賀会支援、海学祭行事支援、近藤真琴翁記念碑周辺環境整備支援等々につきましては深く感謝しております。

早速ながら本校のこの１年間の動静につきましてお知らせします。平成18年度は大学評価学位授与機構による高専機関別認証評価が実施されました。本校の点検評価委員会および同専門委員会のメンバーが半年かけて取り纏めた11基準および選択２基準に関する自己評価書を６月末に評価機構へ提出しました。その直前には本校の運営諮問会議を開催し、委員による事前の精査をいただきました。10月中旬には評価機関による訪問調査を受審し、１月末には評価結果(案)の通知を受け、３月末には評価結果が確定しました。これらの自己評価書ならびに評価結果の詳細は本校ホームページに公表してありますので、どうぞご覧ください。本校の総合評価結果は高専評価基準を満たしているというものでした。この基準は高専としての共通レベルを保証するものでありますが、優れている点としての評価を多数いただいた反面、一点だけ既に改善済み事項ながら、要改善の指摘もありました。法律による第三者評価受審は７年間隔とされています。

つぎに新しく専攻科棟としての四号館校舎が年度末３月に完成し、６月１日に竣工式、祝賀会が催されました。１号館右横、潮騒会館との間に、３階建ての明るい専攻科棟がお目見えし、１号館２階とは渡り廊下で繋がりました。高専機構理事、鳥羽市長、佐藤前校長、同窓会長、奨学後援会長、攻玉社学園理事ほかの来賓出席のもと多数の教職員も参加して盛大に行われました。同窓会からはこの祝賀の宴の経済支援をいただき、厚く感謝申し上げます。因みに６月１日は本校の高専としての発足40周年記念日に当たっております。

今年19年度の施設工事の予算措置としては２号館校舎の耐震、教室狭隘改修を夏休み以降に予定しており、全面的な大改修工事を計画しています。学生の活動においては、衛星設計コンテストにおいて昨年に引き続き連続してアイデア大賞をいただきました。各スポーツにおいても同窓会からの褒賞を受ける優秀な成績をあげています。

年度の教育成果の出力としては商船学科９月卒業生26名については就職20名、専攻科進学５名、大学編入学１名であり、また電子機械工学科、制御情報工学科３月卒業生70名については就職55名、専攻科進学９名、大学編入学６名を送り出しました。そしてこの３月末には本校初めての生産システム工学専攻修了生11名を送り出しました。新築ほやほやの専攻科棟３階のマルチメディア大教室にて修了証書授与式を行い、６名就職、５名大学院修士課程進学となり、10名が学士（工学）の学位を授与機構から取得し、１名も６月に再受審します。平成19年４月には既に本科３学科に115名、専攻科（生産システム）に９名が入学しました。

さて、既に同窓会の皆様にも関係情報が間接的に入っていることと思いますが、高専の統合再変改革のことについてお伝えします。既に昨年の11月海学祭の折に落合会長には状況を話してありましたが、同窓会の皆様へ私からお伝えするのは初めてになります。

昨今の運営費交付金ならびに人件費の削減と15歳人口の減少傾向等々の厳しい環境条件を受けて、高専機構本部は平成18年の春から委員会に於いて審議を重ね役員会を経て、９月には国立高専の整備について、『新たな飛躍を目指して』という冊子を作成配付しました。これを受けて９月から11月にかけて１県に複数高専のある16高専に対しては統合再編に向けて、またその他のすべての高専に対して改革に向けて検討を進めるよう要請を出しました。本校のグループは鈴鹿高専であり、10月下旬には両校統合再編検討委員会を設置し、そのメンバーは両校の校長、各主事、事務・部課長で構成されていますが、未だ課題設定のうえ検討に入るまでに至っていません。検討会は隔月開催のペースで重ねていますが、両校相互訪問、現状説明から始まり、相互の背景状況理解と関連フリートーキングまでに至っています。検討の期限は未定ですが統合再編に向けてを基本としつつ、その他の選択肢も含めて、両高専の置かれている社会状況にも留意しつつ、メリット、デメリットを分析検討し、将来の充実発展を含むグランドデザインを理由付け策定

していくことになります。

さて、この度の同窓会役員につきまして落合弘明会長から辻 裕 新会長への交代にあたりましては、特に同窓会そして落合会長、役員諸兄の永年の本校への支援につきまして厚く御礼と感謝を申し上げるとともに、これからもお体をご自愛のほど願っています。そして同窓会と辻新会長、役員諸兄におかれましては今後とも本校へのご支援かたよろしくお願いいたします。

高専を取り巻く環境条件は先にも述べたとおり相変わらず厳しい状況にありますが、高専卒業生の社会的実績評価と就職率の良さを追い風に、益々、本校教職員学生人材の資質向上と良きリーダシップと倫理観を授けたく、地域との連携にも留意しながら、社会情勢の変化をとらえた特色ある高専運営に一丸となって努めて行きます。今後ともよろしくお願いします。

本部報告

平成19年度本部総会

平成19年度本部総会は、6月10日(日)正午から母校の視聴覚教室に於いて開催されました。

来賓に山田猛敏校長と沼口邦明事務部長をお迎えして、会員70名が出席されました。

総会次第

1、開会の辞
2、会長挨拶
3、学校長挨拶
4、議事
　イ、平成18年度会務報告
　ロ、平成18年度会計報告
　ハ、会計監査報告
　ニ、会員の表彰
　ホ、役員の改選
5、新会長挨拶
6、議事
　イ、平成19年度事業計画
　ロ、母校・同窓会の将来問題について
　ハ、その他
7、支部報告
8、閉会の辞

上の総会次第に従い、開会の辞に続き、昨年の総会以後亡くなられた38名の会員の冥福を祈り、1分間の黙祷をささげました。

続いて落合会長が直前に開催された理事会で会長を交代されることになった関係で、簡単な挨拶をされました。

山田校長には、前に掲載したご挨拶を五分間程度していただき、沼口事務部長と共に懇親会開催まで退席していただきました。

続いて、議事に入り、斉藤副会長が出席者に配付した総会資料に則り、平成18年度会務報告・会計報告を行い、会計監査報告を斉藤希二氏が行い、総会出席者全員に承認されました。

会員の表彰は、落合会長が後に掲載する各氏に表彰状と記念品を贈呈されました。

役員の改選は、先に開催された理事会で最も時間をかけて審議され、新会長としてS32N・辻 裕氏(ウエットマスター社長)が就任することに決定し、総会で承認されましたが、他の役員人事については前もって落合会長が用意した候補者について理事会でも審議する時間がなく、総会でも協議されませんでした。

平成19年度事業計画と母校・同窓会の将来問題については、落合前会長が総会資料に則り、簡明に説明されました。

次いで、辻新会長が先に掲載した就任の挨拶をされ、今後の同窓会活動への抱負を述べられました。

その他として、金田本部理事が辻会長の下で役員人事がどうなるか質問したことに対し、辻会長は早急に臨時理事会を開催して新人事を決定する旨、返答されました。

支部報告は、時間の関係で懇親会場で行うことになり、約1時間の総会を終了しました。

理　事　会

総会議題を審議するため、本部総会に先立ち、6月10日(日)午前10時40分から母校100周年記念資料館2階大会議室で、落合会長以下31名の役員が出席して、平成19年度理事会が開催されました。

落合会長が挨拶の後、本部総会の配布資料をもとに平成18年度会務報告を行い、会計報告では会費納入が400万円必要であること、慶弔費は支部長経験者以上は生花を、その他の会員は弔電とすること、会務運営費でH5N・瀬田さおり氏に会費・会員動静等のパソコン業務を依頼していることを報告された。

会計監査報告を斉藤希二氏が行い、出席者全員に了承されました。

続いて、会員の表彰を総会資料で会長が報告されました。

役員改選は会長交代が主題となり、熱い討議が約40分間に亘りなされました。選挙の結果、S32N・辻 裕氏(ウエットマスター社長)に決定しました。

辻氏擁立を願う役員18名が前日に母校に集合して意志の統一を重ねた成果が出たようです。

この議論の為、他の役員や平成19年度事業計画、母校・同窓会の将来問題についての議題を討議する時間がなく、出席者全員が急いで総会会場の視聴覚教室に移動して理事会を終了しました。

理事会出席者は、下記の会員です。
(役員名は、平成18年度による)

相談役	松本暢生	
会長	落合弘明	
副会長	根本　明	
	辻　裕	
	菅原昌男	
	松浦　肇	
	斉藤　隆	
支部長	田中三郎	(京浜)
	菅沼延之	(名古屋)
	中澤昌信	(四日市)

藤本昌之（大阪）
奥　正夫（神戸）
福岡健彦（九州）
古川昭一（伊勢志摩）
理　事　中村武史（本部）
金田　護（本部）
鈴木秀司（〃）
世宮利郎（〃）
竹内和彦（〃）
岡本楠清（〃）
出江幸重（〃）
江崎修央（〃）
菱田　司（京浜）
水野正治（〃）
大橋秀章（〃）
小林正司（名古屋）
竹川俊幸（〃）
加塚伸吾（〃）
山田岑生（四日市）
桑嶋収平（神戸）
会計監査　斉藤希二

以上31名

総会出席者 ○印 総会のみの出席者

来賓（2名）
山田猛敏 校長
沼口邦明 事務部長

N科（39名）

S18	落合好明	S19/12	根本　明
S19/12	福村藤右衛門	S21	清水芳美
S22	落合弘明	S22	斉藤希二
S24	待井信一	S26	松本暢生
S29	漆山順三	S30	上山　浩
S31	桑嶋収平	S32	大澤則義
S32	奥　正夫	S32	辻　裕
S33	菅原昌男	S33	福岡健彦
S36	松浦　肇	○S37	中澤昌信
S38	武部二三男	S39	中村武史
S41	近藤政晴	○S41	小林昭男
S41	鷲見浩顕	S41	鶴見英昭
S41	内藤　廣	S41	中野正義
S42	金田　護	S42	田中三郎
S42	藤本昌之	S43	小林正司
S43	水野正治	S44	武田雄三
S47	宮川　清	S48	鈴木秀司
S48	菅沼延之	S48	宗接万太郎
S49	大橋秀章	S54	西濱卓美
H01	澤田英樹		

E科（28名）

S08	髙山逸治	S16	秋山末雄
S18	高梨素直	S21	谷　友也
S26	秋田　清	S26	黒田俊夫
S27	斉藤　隆	S27	田中廣行
S30	古川昭一	S32	梅田丈二
S35	菱田　司	S37	山田岑生
S40	川口心也	S41	木俣良雄
S41	三輪光治	S41	山下文徳
S42	竹川俊幸	S42	豊崎義則
S43	世宮利郎	S47	岡本楠清
S47	竹内和彦	S47	永井春久
S52	加塚伸吾	S52	星野芳昭
S54	木下雅史	S56	大野伸良
H05	上川直也	H05	下村仁志

M科（3名）

H03	出江幸重	H04	江崎修央
H19	山口晃正		

○同伴者（1名）
合計（73名）

懇親会

本部総会終了後、13時10分から総会会場に隣接する潮騒会館の食堂で懇親会が開催されました。

参加者70名（来賓校長・事務部長・会員68名）は、総会の堅苦しい雰囲気から解放され、笑顔で立食パーティに望みました。

出席した会員中、最年長のS8E卒の髙山逸治氏の乾杯の音頭で楽しい宴が始まりました。

今回は会長が交代した関係で、辻新会長に祝福の声をかける人、落合前会長に半世紀に亘る同窓会維持運営への感謝と労いの声をかける人、校長と歓談する人、旧交を温める人、情報交換をする人、今後の同窓会活動への期待を語る人で従前にも増して熱気が会場を包みました。

出席者の年代は、昭和41年卒の会員がクラス会を鳥羽で開いた関係で9名も出席されましたが、全体として40年代の卒業生が27名と最も多く、この年代の社会的活躍が推察されました。

宴の最中、時間の関係上、総会で行うことが出来なかった各支部長による支部報告がなされました。

また、本年をもって解散することになった昭和18年卒のクラス会「一八会」の代表者、落合好明氏から、会のシンボルであるクラス会旗（額縁に装丁）と残金18万円の同窓会への寄贈式も行われました（クラス会だよりに詳述）。

約2時間の宴は、会員の学校・同窓会への熱い気持が充満した懇親会となりました。

平成18年度収支計算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. 収入

科目	予算	金額	差異
入会金(新入会員99名)	100,000円	99,000円	△1,000円
会費(新入会員99名2年分)	400,000円	396,000円	△4,000円
会費(一般・終身・特別会員)	4,000,000円	3,532,700円	△467,300円
利子(郵政公社・第三銀行分)	500円	606円	106円
会員名簿売上代金	500,000円	327,000円	△173,000円
記念誌売上代金	400,000円	20,000円	△380,000円
寄付金	0円	113,940円	113,940円
120周年記念事業寄付金から移行	0円	340,540円	340,540円
計	5,400,500円	4,829,786円	△570,714円
前期繰越残高	2,794,279円	2,794,279円	
収入合計	8,194,779円	7,624,065円	

2. 支出

科目	予算	金額	差異
負担金(卒業祝賀会,全船協,奨励金その他)	350,000円	429,980円	△79,980円
本部総会費用	450,000円	452,675円	△2,675円
支部通信費補助	280,000円	320,000円	△40,000円
会報印刷代・送料	1,600,000円	1,765,550円	△165,550円
謝金	80,000円	40,000円	40,000円
慶弔費	80,000円	98,171円	△18,171円
役員旅費	600,000円	578,000円	22,000円
通信費	80,000円	39,000円	41,000円
事務用品	80,000円	209,145円	△129,145円
会議費	100,000円	114,218円	△14,218円
百周年記念資料館環境整備費	70,000円	123,730円	△53,730円
会務運営費用	600,000円	600,000円	0円
予備費(郵便振替払出金)	60,000円	71,860円	△11,860円
前年度立替金	0円	200,000円	△200,000円
計	4,430,000円	5,042,329円	△612,329円
次年度繰越収支	3,764,779円	2,581,736円	

基金の部決算（平成19年3月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			31,882,189円
利子(みずほ信託銀行分)	2,958円	0円	
利子(第三銀行分)	4,129円		
計	7,087円	0円	31,889,276円

母校創基120周年記念事業寄付金決算（平成19年3月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			761,544円
利子(郵政公社分)			
一般会計へ移行	40円	340,540円	
計	40円	340,540円	421,044円

財産目録（平成19年3月31日）

項　目	金　額	左の内容	金　額
繰越金	2,581,736円	貸付信託(みずほ銀行)	7,000,000円
基金	31,889,276円	金銭信託(みずほ銀行)	287,035円
母校創基120周年記念	421,044円	定期預金(第三銀行)	7,689,164円
事業寄付金		普通預金(第三銀行)	1,713,417円
		定期預金(三重銀行)	5,000,000円
		定期預金(郵政公社)	10,200,000円
		普通預金(郵政公社)	1,328,954円
		郵便振替残高	65,800円
		会員名簿残(326部)	978,000円
		記念誌残　(144部)	456,000円
		現金	173,686円
		計	34,892,056円

会計監査報告

平成18年度における、入会金、会費、寄付金、会員名簿購入代金、記念誌購入代金等金銭受け入れ原簿、また支出については、領収書、金銭支出原簿、さらに、財産目録、証券、預金通帳、郵便振替等と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適正であったことを認めます。

平成19年5月31日

会計監査　齋藤希二
成瀬正雄

会員の表彰

本年は役員の改選期に当たりますので、「会員表彰規定」に従い、下記の会員に対し表彰状及び記念品を贈呈し、その栄誉を讃えます。なお、「平成19年度第1号同窓会報」に掲載し、全会員に周知します。

北海道支部	S24E	桜井　明	支部長4期
静岡支部	S26E	堀三矢之助	支部長5期、理事3期限
四日市支部	S37N	石垣　三郎	理事　4期
	S37N	中澤　昌信	支部長3期、理事1期限
	S37E	山田　岑生	理事　4期
大阪支部	S33N	菅原　昌男	支部長1期、副会長2期
神戸支部	S32N	奥　正夫	支部長3期、理事1期

会員の叙勲

■平成18年春の叙勲において、下記の会員が栄誉を受けられました。
○旭日双光章受章
　S30N・長谷川尚美
秋田船川水先区水先人を平成19年1月31日まで永年勤められた功績に対し、叙勲されました。
■平成19年春の叙勲において、下記の会員が栄誉を受けられました。
○旭日小綬章
　S30N・塩澤　進
伊勢三河湾水先区水先人を永年勤められた功績に対し、叙勲されました。
■また、会員ではありませんが、元校長の飯島先生が教育上の業績により叙勲されました。
○瑞宝中綬章
　飯島幸人（本校名誉教授）
■なお、平成19年「海の日」に次の会員が、表彰されました。
○国土交通大臣表彰・受賞
　S33N・櫛田完次郎
伊勢三河湾水先区水先人を永年勤められた功績を称え、栄えある受賞を心よりお慶び申し上げます。
会員・元教職員の叙勲・表彰に際しては、本人のみならず他の会員についても本部事務局にご連絡下さい。

会員同士の結婚

下記の会員同士が結婚されました。
新家庭の門出をお祝い申し上げますと共に、お2人の更なるご多幸をお祈り申し上げます。
○H16N　谷 水 孝 之
　H16N　　志 帆（旧荒木）
（平成19年2月1日）
会員同士の結婚の場合、会報は新家庭に一部のみ送付し、会費も主人1人のみ納入することになりますから、ぜひ本部事務局にご連絡下さい。

専攻科棟(4号館)竣工記念式典及び祝賀会

待望の専攻科棟の竣工を祝して6月1日(金)、多数の来賓をお招きして記念式典と祝賀会が盛大に挙行されました。
テープカットは、同棟の玄関前で14時30分から行われ、(独)国立高等専門学校機構の河村理事、山田校長、木田鳥羽市長、大石専攻科長、専攻科生代表の谷口暢浩君の5名が鋏を入れました。
記念式典は14時45分から3階のマルチメディア教室で、次の式次第により行われました。
記念式典次第
1.開式の辞　2.校長式辞　3.来賓祝辞(河村理事、鳥羽市長)
4.来賓紹介　5.祝電披露　6.施設概要説明(専攻科長)
7.感謝状贈呈　8.閉式の辞
木田鳥羽市長の祝辞は、幼少の頃から鳥羽市民として本校に抱いてきた「あこがれ」から始まり、今後の高等教育と研究成果への期待と声援に満ちたものでした。
式典終了後は、来賓に施設を見学していただきました。(建物の概要については、本会報の学校だよりに記述)
祝賀会は、潮騒会館食堂で16時から開催されました。
祝賀会次第
1.開会の辞　2.校長挨拶　3.来賓祝辞(中村鳥羽商工会議所会頭、落合同窓会長、攻玉社木村専務理事)　4.乾杯(佐藤前校長)
5.歓談　6.謝辞(佐藤副校長)　7.閉会の辞
中村鳥羽商工会議所会頭（鳥羽水族館長）と攻玉社木村専務理事の祝辞は、近藤真琴先生が本校を創立した歴史的背景から説き明かされ、(独)国立高等専門学校機構の河村理事の他、初めて本校を訪れた来賓に、本校は他の高等専門学校とは伝統の重みが全く違うとの強い印象を与えたのではないかと思われます。
乾杯の音頭をとられた佐藤前校長も、自身が校長在職中に専攻科設置に奔走された経緯から、満面の笑みを湛えておられました。
なお、本祝賀会の開催に際して落合同窓会長から学校に10万円のお祝いが贈られました。

同窓生の戦争体験

朝日新聞朝刊の三重版に、2007年8月12日(日)から8月21日(火)まで7回に渡り「総動員の海、鳥羽商船の戦中・戦後」の見出しで、本校卒業生の太平洋戦争前後の体験談が掲載されました。
○第1回「学校に軍隊教育の波」
　S18N・落合好明　S15E・加藤卓雄　S19N・裏山惣一
○第2回「敵機襲来丸腰の恐怖」
　S15E・加藤卓雄　S19N・裏山惣一
○第3回「海上特攻奇跡の生還」
　S15E・向原誠也　S15E・加藤卓雄
○第4回「誇りの制服国防色に」
　S21N・小橋蒸治
○第5回「北の海沈んだ避難民」
　S18N・山口智男
○第6回「輸送船から見た惨状」
　S21N・川村喜一郎
○第7回「復興へ世界を巡る」
　S21N・小橋蒸治　S19N・裏山惣一　S18N・落合好明
以上の方々の貴重な体験談を紙上で読まれた三重県在住の会員も多いことと思われます。

憲法９条の改正論議がかまびすしい昨今、「鳥羽商船同窓会の歩み60年、70年、80年」に投稿された貴重な体験談と同様、平和を守り続けるために多くの若者に読んでいただきたいものです。

会員の新刊書紹介

◎日本人船員が見た朝鮮戦争
S21N　川村喜一郎
2007年２月22日発行
発行人　佐久川文明
発行所　(株)朝日コミュニケーションズ
定　価　1,000円
※現在活躍中の地球深部探査船「ちきゅう」の建造中に工務監督として関わった川村氏が若かりし頃、朝鮮戦争の最中に輸送船でアメリカ人船員と混乗して働いた航海士当時の体験記で、たいへん読み易く興味深いエピソードが語られています。本書は、読売新聞(2007・3・9)でも紹介されました。

◎航海学概論
鳥羽商船高専ナビゲーション技術研究会編
平成19年４月18日発行
発行所　(株)成山堂書店
定　価　3,100円
※海と船にあこがれ、世界の海を航海することを夢見る若い人々のための入門書で、本校商船学科航海コースの教員10名が執筆しました。S39N・中村武史とS48N・鈴木秀司も担当教科に関連する章を執筆しました。

近藤真琴翁の書（和歌）

本校図書館長・水野教授が懇意にしている書画骨董商から同氏に、近藤真琴先生直筆の和歌の掛軸があるという朗報がもたらされたため、同窓会が五万円で購入し、二月二三日(金)、落合会長から山田校長に寄贈されました。
百周年記念資料館の二階展示室に掲示されました。

語合　底
かたりあふ　こころのそこの　ともがきは
偽　結　初
いつはらぬより　むすびそむらむ
友垣(友人)
真琴

水先人の養成について

水先人の不足に伴い水先法が改正され、平成19年４月から新養成制度が開始されました。
その概要を、(財)日本海洋振興会の募集案内で紹介します。
本校でも、商船学科５年生の女子(安井礼央奈さん)が既に３級水先人養成施設(海技大学校)に入学が決定しています。日本初の女性パイロットの誕生が楽しみです。

水先人養成支援対象者の募集案内

１．水先人養成支援の目的
近年における日本人船員の大幅な減少に伴い、海の安全確保を担う水先人の後継者の確保が極めて困難な状況となっています。このため、平成18年に水先法が改正され、水先人の資格要件が緩和されるとともに併せて新たに水先人の養成制度が創設されました。
水先人養成支援は、当会が水先人をはじめとする関係者のご協力を得て、水先人を目指す方々が、登録水先人養成施設において安心して必要な知識技能を習得できるような環境を確保するため、経済的な支援を実施すること等を通じ、十分な水先人の確保に資することを目的としています。

２．支援内容
登録水先人養成施設における養成内容及び養成期間は、概ね次のとおりであり、養成を受けるためには長時間を要するとともに、所定の費用が必要となります。

等　級	一級水先人	二級水先人	三級水先人
合計期間	９ヵ月	１年６ヵ月	２年６ヵ月
座　学	3.5ヵ月	６ヵ月	9.5ヵ月
操船シミュレータ	1.5ヵ月	3.5ヵ月	６ヵ月
商船等乗船	－	－	４ヵ月
タグボート乗船	－	0.5ヵ月	0.5ヵ月
水先現場	４ヵ月	８ヵ月	10ヵ月

※１．座学は、航海、運用、法規及び英語に関する科目等を履修。
２．操船シミュレータは、操船シミュレータ装置を用いて実践的に履修。
３．商船等乗船は、国内外を航行する商船等に乗船して訓練を実施。
４．タグボート乗船は、タグボートに乗船して訓練を実施。
５．水先現場は、各水先区に赴き、水先人に帯同して実務的な訓練を実施。

水先人を目指して登録水先人養成施設に入ろうとする方を対象に当会が実施する選考試験を受験し、その結果選考された方は、次の内容の支援を受けることができます。
○養成手当　養成期間の全期間において、月額250,000円
○旅費・宿泊費　訓練期間中(商船等乗船、タグボート乗船、水先現場)実費相当を支給
○教　材　無償支給
○被服費　無償支給(所定の作業服、救命胴衣、ヘルメット、安全靴)
○その他　養成期間中の傷害保険の付保、商船乗船中の供食等を支援
※上記により支援した費用について、自己都合等により水先人になることを断念した場合（やむを得ない場合を除く。）には、相当額の返還を求める場合があります。

３．養成開始時期及び登録水先人養成施設
（１）養成開始予定時期
一級水先人　平成19年度春期
三級水先人　平成20年度秋期

※二級水先人の養成開始時期は、平成20年度春期からの予定であり、来年度秋期以降に募集を開始する予定です。

（2）登録水先人養成施設

次の各学校が登録水先人養成施設となる予定です。

○国立大学法人 東京海洋大学（東京都江東区）
○国立大学法人 神戸大学（兵庫県神戸市）
○独立行政法人海技教育機構 海技大学校(兵庫県芦屋市)

4．応募資格

一級水先人　応募時に、次の全ての要件を満たしていること。

○三級海技士（航海）又はこれより上級の海技免許を有すること。
○総トン数3,000トン以上の船舶(平水区域を除く。)に２年以上、船長として乗船した経験を有すること。

三級水先人　応募時に、次の全ての要件を満たしていること。

○三級海技士(航海)若しくはこれより上級の海技免許を有すること。又は、当該海技免許を取得することが予定されていること。
○総トン数1,000トン以上の船舶(平水区域を除く。)に１年以上、船長若しくは航海士として乗船した経験を有すること。又は、登録水先人養成施設に入る前までに当該船舶に１年以上、実習生として乗船した経験を得ることが予定されていること。

以上のほか、各級ともに、平成18年度に改正された水先法に定める欠格条項(当該改正後の水先法第６条)に該当しないことが応募の要件になります。

5．水先人養成支援対象者の募集定員

資　格	水 先 区	募集定員	登録水先人養成施設
一級水先人 ・15水先区 ・計54名	釧路水先区	1名	東京海洋大学
	留萌水先区	1名	
	仙台湾水先区	1名	
	東京湾水先区	13名	
	新潟水先区	1名	
	伏木水先区	1名	神戸大学
	七尾水先区	1名	
	清水水先区	1名	
	伊勢三河湾水先区	7名	
	大阪湾水先区	8名	
	内海水先区	9名	海技大学校
	関門水先区	7名	
	博多水先区	1名	
	細島水先区	1名	
	鹿児島水先区	1名	
三級水先人 ・5水先区 ・計25名 ※※	東京湾水先区	8名	東京海洋大学 海技大学校
	伊勢三河湾水先区	4名	神戸大学
	大阪湾水先区	6名	海技大学校
	内海水先区	6名	海技大学校
	関門水先区	1名	神戸大学

※上記各表中の登録水先人養成施設については、応募状況等により変更されることがあります。

※※東京海洋大学及び神戸大学が養成する三級水先人については、大学院博士前期課程に入学することになるため、学士の学位など大学院の入学要件を満たす必要があります。

平成19年度臨時理事会までの経緯

会長　辻　　裕

はじめに臨時理事会開催に至るまでの経緯を説明します。

平成19年６月10日、本部総会に先立ち百周年記念資料館２階会議室において平成19年度同窓会理事会が開催されました。

会議は落合会長が議長となり議題に沿って、１.平成18年度会務報告　２.平成18年度会計報告　３.会計監査報告　４.会員の表彰まで進みました。議題５.役員の改選において会長の選出に時間がかかり、以後の議題　６.平成19年度事業計画　７.母校・同窓会の将来問題は時間切れで審議未了となりました。理事会において次期会長にS32N辻 裕選出のみを行い本部総会で発表されました。19年度役員の改選並びに19年度事業計画は臨時理事会で早急に審議し、結論を次回発行の同窓会報に掲載することで総会の承認を得ました。

このたびの会長交替は難産でした。

本来、同窓会は「会長」の命により「事務局」が運営一切を取り仕切る組織です。落合会長は母校の教官在職中に「事務局」を谷口教頭先生から、「会長」を和田会長から引き継がれ、「会長職から事務局の出納業務等」に至るすべてをご自身で担ってこられました。母校在職の本部理事は中村武史氏を中心に「通信事務や名簿管理から雑役仕事に至るまで」を裏方としてご苦労されました。

今般、同窓会の「会長」と「事務局」の業務等を明確に分割し、本部事務局体制を磐石とし、未来につながる組織（裏方でない）とすることで、会長職の交代（引継）等が容易に出来る体制を確立します。私は同窓会の組織を改革し、人心を一新して同窓会の活性化を図ることを念頭において「同窓会クラスター構想」を発案しました。

平成19年度臨時理事会は平成19年７月21日、出席者名簿のとおり26名の同窓会役員が名古屋の地に参集して開催されました。議題は、１.同窓会資産引継の報告　２.平成19年度予算案検討　３.同窓会クラスター構想について意見交換の３項目でした。

会議は金田護暫定事務局長が司会進行役を勤め、奥正男神戸支部長を書記に選出して午後２時から５時15分まで熱心に審議が行われました。その時の議事録は詳細に亘って纏められて事務局に保管されました。議事録の要点を以下に掲載します。

平成19年度臨時理事会議事録

１．会長挨拶…辻会長と落合前会長の会長交替に関する私信を朗読
２．出席理事の自己紹介…別紙
３．同窓会資産引継報告＝村越会計監査
　・７月14日同窓会本部事務局の事務室において村越文男会計監査立会いの下、中村武史事務局担当から辻会長に7項目、合計32,016,458円の通帳類が引き渡された。
　・今後は通帳、印鑑を本部事務局長が保管する。
４．同窓会クラスター構想審議
　ａ．本部機構
　・同窓会本部所在地は百周年記念資料館3階の事務室とする。
　・本部事務局は金田護事務局長他４名の事務局員でスタートする。事務作業は出来るだけアウトソーシングする。
　・本部主催会議：理事会年１回、支部長会年２回、本部総会年１回
　ｂ．支部機構

・支部と本部の関連性は地方分権を主体として「支部で出来ることは支部で行う」を原則とする。
・支部の範囲は在住者が漏れなく何れかの支部に所属できるように受け持ち範囲を広げる。
北海道･東北支部、関東支部、中部支部、四日市支部、伊勢志摩支部、大阪支部、神戸支部、西日本支部
この案に沿って各支部に持ち帰り検討して後日、最終決定とする。(詳細は事務局だよりP28参照)
・支部の活動の充実を図る為、支部長、副支部長、支部役員などを選任し、支部事務局を設置して支部の実情に合わせた活動を推進する。なお、支部活動の企画・実施について都度、本部事務局に報告する。
・支部活動に対して現行の「支部通信費」を「支部活動費」と改めて増額する。
・支部会員の慶弔については「鳥羽商船同窓会会長辻裕」名で各支部長が対応する。支部長は慶弔の事実を本部事務局に報告する。

c．本部活動
・同窓会報の編集･印刷は本部事務局で行い、会員への配布は各支部で行う。19年度の同窓会報は10月１日の発行を目標とし、今年度は１回の発行とする。同窓会報の発行回数はいろんな角度から検討し協議して決める。
・会費納入と会員名簿の管理はコンピューターで一元管理できるソフトを検討する。
・同窓会ホームページを本年度内に開設することを目指す。
・本部行事に出席する役員の交通費は従来どおり支給する。
・事務局に会計担当を置き透明性の高い会計業務を実施。更に、会計ソフトを導入し会計業務の正確さと効率性を向上させる。村越会計監査は公認会計士であるので会計ソフトの立ち上げに協力する。

d．高専統合問題
・高専統合問題が重要な時期を迎えているので学校・学生・同窓生の存在を積極的に対外的にアピールする必要があり、学校当局との連携を深め、独立行政法人国立高等専門学校機構、攻玉社同窓会、全日本船舶職員協会、その他関係団体などへの活動を展開する。
・同窓会本部内に田中副会長を代表とする「高専統合WG」を設置し、同窓会として高専統合問題にどのように取り組むかを検討し、次回支部長会(11月4日予定)までにWG提案を作成する。
・関東支部が「攻玉社同窓会」との窓口となって連携を図り、近藤真琴翁が明治14年に創立され、126年の伝統を誇る「鳥羽商船高等専門学校」の独立と名称を守ることに尽力する。

e．会則などの整備
・クラスター構想に伴い会則・細則・内規・会計基準・旅費規程・慶弔規定などが必要になるので、来年３月の支部長会に提案できるよう検討を進める。

5．平成19年度役員改選
・「平成19年度同窓会役員一覧(案)」を配布して各支部で検討のうえ８月31日までに支部役員名簿を本部事務局に提出のこと。

6．19年度予算案審議
・会長から提出された予算案を承認。但し、暫定的な取り扱いとし、11月４日支部長会に修正予算案を提出する。(P12参照)

7．辻会長から「落合前会長へ感謝状並びに記念品の贈呈」が提案され満場一致で承認された。
・贈呈の場所と時機は11月４日の海学祭に合わせて鳥羽近辺のホテルを検討する。

クラスター構想の背景と主核

副会長 田中三郎

辻新体制のスタートにあたり同窓会の機構改革をクラスター構想として取りまとめることに携わった者として、自分なりに捉えた背景と主核を述べさせていただきます。

大正14年12月に設立された同窓会は大先輩達による時代相応の対応により80年を超す歴史を刻んできましたが、ここ数年、時代を反映した大波に見舞われ同窓会の維持存続に危機感を抱く状況にありました。

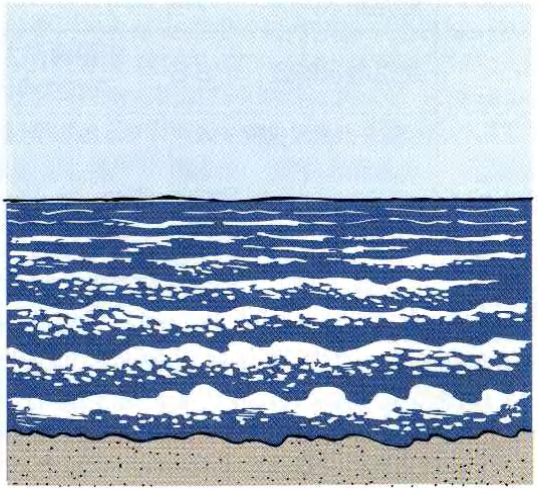
大波の一つは「高専統合問題」です。平成16年に独立行政法人国立高等専門学校機構が発足しましたが、全国にある55高専の統合が推察され母校も鈴鹿高専との統合が話題にのぼっています。二つには「同窓会意識問題」です。昭和60年に電子機械工学科が創設されましたが、従来の商船系卒業者と新たなる非商船系卒業生では同窓会意識の温度差が顕在化しつつあることが指摘され同窓会のあり方が協議されています。三つには「同窓会運営問題」です。半世紀にわたり同窓会を支えリードしてくれた落合弘明氏（前会長）が体調問題などで辞任を度々希望するも、同窓会の全てを掌握する会長職の後継者が見当たらず、いつまでも落合前会長にご苦労をお掛けしていました。

このような大波にさらされる中で船を安全に航海させる事が模索され、元気な同窓生の輪を拡大し同窓会の勢いを増すことにより局面を打開することが必要であり、組織活性化手法として組織クラスターを用いることが有効と考えました。つまり、在来線は列車の先頭に大きな駆動力を有する車両を配置して全車両を引っ張った、新幹線は全ての車両に駆動力を持たせることにより高速力を得ることが出来るとの手法であります。

同窓会も会長及び母校事務局に一切を負担させる組織ではなく、各支部が夫々で業務を分担し責任を担う組織への変革を図る事により総合力を高めていこうとするものであります。

社会一般でも小さな政府と地方分権は時代の趨勢であり、企業においても分社化や事業部制を取り入れる会社が増加しています。今が旬を迎えている葡萄もぶどうの粒が集まりぶどうの房を作っています。

同窓会設立100周年を目指し持続可能な同窓会を構築していくためにも、支部中心への変革を主核とするクラスター構想へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

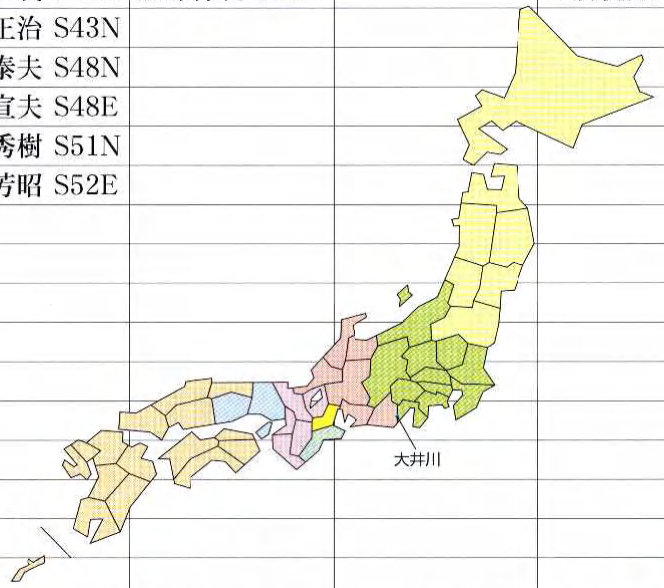


鳥羽商船同窓会会報　2007年10月15日発行　第1号

平成19年度同窓会役員一覧（19年9月1日）

（敬称略）

役職	氏名＼支部名	北海道・東北	関東	中部	四日市	伊勢志摩	大阪	神戸	西日本
会長	辻　裕 S32N								
副会長			田中三郎 S42N	松浦　肇 S36N	山田岑生 S37E		菅原昌男 S33N	桑嶋収平 S31N	
理事(支部長)		桜井　明 S24E	大橋秀章 S49N	菅沼延之 S48N	中澤昌信 S37N	古川昭一 S30E	藤本昌之 S42N	奥　正夫 S32N	福岡健彦 S33N
理事	金田　護 S42N	前田　公 S32N	尾鷲綱三 S33E	丹羽幸彦 S41N	室　博也 S55N	岡本楠清 S47E	岡崎和清 S48E	西村　潔 S33E	山下文徳 S41E
〃	溝井　昇 S42E		菱田　司 S35E	竹川俊幸 S42E	西井育央 S61E	橋本晴行 S48E	岡室孝美 S52N	小澤　剛 S36E	
〃	江崎隆夫 S44E		小野斗章 S37E	岡田晴康 S43N		内山善勝 S48E	田中　潔 S52N	坂井　敏 S52E	
〃	天野清友 S57E		可児紘之 S39E	小林正司 S43N		中村俊輔 S53E	宮本一彦 S55N		
〃			中野正義 S41N	加塚伸吾 S52E		上村健太 S63E	国安政幸 S58N		
〃			水野正治 S43N						
〃			大橋泰夫 S48N						
〃			奥田宣夫 S48E						
〃			菅原秀樹 S51N						
〃			星野芳昭 S52E						
会計監査	村越文男 S34N								
〃	川口心也 S40E								
事務局長	金田　護 S42N								
事務局	溝井　昇 S42E								
〃	江崎隆夫 S44E								
〃	天野清友 S57E								
学校連絡担当	中村武史 S39N								
相談役	根本　明 S19N								
〃	松本暢生 S26N								
特別顧問	落合弘明 S22N								
顧問		梶田文彌 S19N	鷲尾松久 S19E	村井憲次 S19E	俗口輝治 S7N	駒田秀男 S10E	島田昭三 S21N	高山逸治 S8E	和田道夫 S10N
〃			片岡久雄 S23E	山本　茂 S22N	今高光雄 S16E	山崎　修 S16N	坂本　實 S23N	浅野和彦 S9E	小原　博 S18N
〃			小山逸男 S25N		末﨑　弘 S17N	秋山末雄 S16E	黒田章三郎 S27N	中島好康 S19N	
〃			掘三矢之助 S26E		北岡万二 S18E	西川慶堂 S17N		長谷川俊治 S19N	
〃			増田　信 S28E		中野清文 S21N	上野和泉 S19E		東爪佐七 S19E	
〃			上山　浩 S30N		成瀬正雄 S22E	斉藤希二 S22N		飯山嘉昭 S27E	
〃			春口正一 S30E		片山勝則 S33N	待井信一 S24N			
						齋藤　隆 S27E			



平成19年度暫定予算

1. 収入

科　目	予算案	平成18年度との差異
入会金(100名)	100,000	10,000
会費(新入会員100名2年分)	400,000	4,000
会費(一般・終身・特別会員)	4,000,000	4,67,300
利子(郵政公社・第三銀行分)	500	−106
会員名簿売上代金	500,000	173,000
記念誌売上代金	400,000	380,000
寄付金	−	−113,940
120周年記念寄付金から移行	−	−340,540
計	5,400,500	570,714
前期繰越代金	2,581,736	−213,543

2. 支出

科　目	予算案	平成18年度との差異
負担金(卒業祝賀会、全船協、商船高専カッター大会、学制会等)	350,000	−79,980
本部総会費用	450,000	−2,675
支部通信費補助	280,000	−40,000
会報印刷代・送料	1,600,000	−165,550
謝金	80,000	40,000
慶弔費	80,000	−18,171
役員旅費	600,000	22,000
通信費	80,000	41,000
事務用品・消耗品	80,000	−129,145
会議費	100,000	−14,218
百周年記念館周辺環境整備費	70,000	−53,730
会務運営費用	600,000	−
予備費(郵便振替払出金)	80,000	8,140
前年度立替金	−	−200,000
計	4,450,000	−592,329
次年度収支差額	3,532,236	950,500

備考

1. 本予算書は前会長の作成されたものであり暫定的なものである。
2. クラスター構想がまとまった後、事業目的に合わせて19年度予算を見直す。

支部だより

北海道・東北支部

支部長　桜井　明

拝啓

秋風が心地良い季節となりました。北海道地域の会員には変わりはなく、皆さん其々に恙無く過ごされておる事と存じます。最近の北海道で最も高い関心事と言えば、来年の夏に開催される主要国首脳会議、一般には「サミット」と呼ばれている関係のことでしょう。サミットは、日本・アメリカ・ドイツ・イギリス・フランス・イタリア・カナダ・ロシアの各国首脳が年一回集まり、国際的な経済・政治などの課題について討議する会議で、主要八ケ国首脳会議G8(ジーエイト)とも呼称されています。議場はもとより、出席者の安全を確保する為の警備や3,000人を超すと言われる随員や報道関係者を収容する施設の提供、それになんと言ってもゆとりのある環境で満足な討議が出来るように、又関係者全員が「よかったなー」と思ってくれるような演出をするのが議長国である日本国の役割であります。今回のサミットは名称を「北海道・洞爺湖サミット」と称し、主会場として洞爺湖の西部にある「ザ・ウインザーホテル洞爺」が指定されました。このホテルは洞爺湖と内浦湾を見下ろす山頂に建つ国際第一級のリゾートホテルでその台形の姿は白亜の豪華客船にアレンジされています。遠望すれば緑の山頂に堂々と「飛鳥Ⅱ」が鎮座しているかにも見えます。近くに有珠山や昭和新山から立ち上る噴煙を見ることも出来ます。洞爺湖湖畔には温泉ホテル群が建ち並び、周囲50Kmの略円形のカルデラ湖の中程には中島が浮かび、野生の鹿が遊び、湖は四季其々の光を放ちます。豊かさとゆとりのある自然と北海道の素晴らしい景勝に世界各国首脳達もさぞ満足されることでしょう。又我々も外来の人達に良い印象を与えるように務めなくてはならないと思っています。今回は主に二酸化炭素放出による地球温暖化、財政危機、貿易不均衡政策によるアフリカや発展途上国の貧困、エイズ問題、その他全地球的課題になっていることなどの討議がなされるということです。今回のサミットは平成20年(2008年)7月7日から9日までの期間で開催され、その企図(コンセプト)には、①安全・静穏②コンパクト③環境との共生等があげられ、特に環境重視の日本を世界にアピールする願いがあるとのことです。隣接する留寿都リゾートに、メディアセンターが設置され、更に続くニセコにもリゾートは連なりその目的は十二分に達せられることでしょう。今回は洞爺湖サミットのことをお伝えしました。皆さんもこのサミットが無事成功するよう応援して下さい。

敬具

関東支部

支部長　大橋秀章

本年、当支部には大きな動きがありました。まず、長きに渡り同窓会活動に貢献された落合会長に代わり、当支部から新たに辻会長が就任したことです。更に、当支

部の理事も新たなメンバーが選任され、支部長も田中から大橋にバトンタッチされました。

私は昭和49年N科卒業のまだまだ若輩ですが、支部同窓生の皆様への情報伝達役として、本部とのパイプ役として微力ではありますが頑張る所存です。又、新たな支部役員一同、今後とも支部の皆様のためとなるような活動をしていきたいとボランティアの枠を超えて日々連絡を取り合っています。

次に、「京浜支部」の名前が新たに「関東支部」となったことです。これは静岡支部の一部の皆様が新たに当支部に所属されることになり、エリアが広がったことと、新しい支部組織改変の構想に基づき呼称が変更されました。詳細は静岡支部のうち大井川以東に在住されている皆様が加入されました。当会報で今年度の支部役員が紹介されており人数が多くなっていますが、支部組織として両支部の役員(静岡支部については該当エリア在住の役員)がそのまま今年度の役員として登録された関係です。

支部組織改変は呼称の変更ということだけではなく、今までの同窓会活動は本部中心の動きでしたが、今後支部中心の同窓会運営となることも大きな変革といえます。今までは母校の先生方を中心とした本部事務局に全ての運営をお願いしていましたが、今後は「自分達のことは自分達で」が原則となり、会員動静の把握、支部運営、慶弔対応、対外活動等、支部組織で対応していくことになります。従って、これから関東支部は他支部とともに支部会員の皆様とともに自ら運営を行なっていかなくてはなりませんので、皆様のご協力・ご支援が不可欠となりますで、どうぞ宜しくお願い致します。

更に当支部として先に述べた対外活動もひとつの方針として掲げています。具体的には兄弟校である「攻玉社学園」との交流があり、昨年度は攻玉社同窓会総会に招待頂き、又当支部総会にも攻玉社学園同窓会長はじめ役員の方々に出席して頂きました。攻玉社による斉藤真琴翁の青山墓地にある墓所訪問にも同行しました。今年度も変わらず、継続して関係強化を計っていきます。

最後になりましたが、例年支部総会は10月に行っていますが今年は東京駅改修工事の関係で、いつもの会場であるルビーホールは使用できなくなりました。今年は東京駅至近場所という前提で、富士屋ホテルにて10月26日(金)に開催することが決定しました。
改めて案内しますが、同級生との何十年ぶりの顔合わせということも多くあり、同級生や先輩・後輩との一杯も楽しみのひとつとなっていますので、支部同窓生皆様多数の参加をお待ちしています。

中部支部

支部長　菅沼延之

先の同窓会総会において敬愛します落合先生が会長職を勇退され新たに辻会長新体制が発足致しましたが、ここ迄到達する過程において色々な難問が発生し、その度臨時の役員会を開催して名古屋支部として立場を鮮明にして参りました。

落合前会長が同窓会に残した功績は多大なものが有り、支部として前会長の志に敬意を払いながら臨んで参りましたが、総会の総意として辻裕氏が会長に就任されましたので支部として全面的に協力し、同窓会の新たな船出に尽力して参る所存であります。

ただ、現時点で母校在籍者の協力が全面的に得る事がむずかしい事がわかっておりこれからの運営については辻会長の力強いリーダーシップを願うものであります。

同窓会の地区割改組に合わせて、静岡支部から多数の方（約50名）が名古屋支部に転籍される事も決まり、従来以上に連絡体制の確立について腐心する事になりそうですが、今が「生みの苦しみ」ととらえ、組織の再構築に努めようと支部会員一同「負けじ魂」で進む決心をしております。

本来なら支部便りは当地の活動状況を報告することが第一で有りますが、今回は名古屋支部の決意表明をもって便りと致します。

四日市支部

支部長　中澤昌信

8月、9月上旬の猛暑が嘘のように、朝夕はめっきり涼しくなりましたが、会員の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

四日市支部の近況を、2点ほどお伝えします。

1　四日市支部総会の開催

平成19年6月23日(土)四日市市内のホテルにおいて、新同窓会長 辻 裕 氏をお招きし、支部役員を含む会員26名の出席のもと、第45回鳥羽商船同窓会四日市支部総会を開催しました。

辻会長からは、今後の本部運営や支部との連携などの活動方針が示され、また、その活動にかける熱い思いを込めたご挨拶をいただきました。

総会での議事については、支部役員会及び事務局からの提案に対する会員の皆様からの異議もなく、満場の拍手をもって承認されました。

また、議事終了後の懇親会では、現在・過去の様々な話題で大いに盛り上がり、会員同士の親睦を深めていただけたと思います。

なお、本年度は支部役員の改選の年でありましたので、本総会に諮り、新体制についてのご承認をいただきました。

支部を取り巻く様々な課題が山積みの状況ではありますが、対話を重視し、一つ一つ根気よく解決していきたいと思います。

2　四日市港まつりと母校との協働

照りつける猛暑の中、平成19年8月5日(日)に、四日市港霞ヶ浦地区で第20回四日市港まつりが開催されました。

例年、この港まつりに合わせて母校と港まつりの運営主体とが協働し、鳥羽丸の一般公開や体験航海を実施し、イベントへの参加や運営の一部を担うなど、港まつりを盛り上げていただいており、現在に至ってはなくてはならない存在となっています。

最後になりましたが、この港まつりに参加していただいた鳥羽丸の乗組員の方々や在学生、この鳥羽丸を港まつりに参加するために、様々な支援をしていただいた関係者の方に、この場をお借りして厚くお礼を申し上げるとともに、敬意を表したいと思います。

大阪支部

支部長　藤本昌之

大阪支部では、平成19年8月30日幹事会を開催、
①本部へ大阪支部新理事の報告

②今後の神戸支部との統合
③次期支部長の候補者
④今年度の大阪支部総会日程
⑤平成20年3月9日関西で開催される予定の本部支部長会
⑥今後の事務局の運営方法
⑦大阪支部のホームページ
⑧同窓会の意義
について話し合いました。

このなかで、神戸支部との統合については、今年中に神戸支部との合同の幹事会を開きたいという意見がありました。

また、次期支部長の候補者については、船長・機関長経験者が望ましいという大阪支部の理想の支部長像をふまえた上で、候補者の選出を行いました。

また、今年度の大阪支部総会の日程については、本年12月～来年1月頃に開催することを決定しました。

また、本部支部長会（関西）についても、開催の場の提案があり、神戸支部との合同幹事会の中で決めていきたいと言う結論を得ました。

前途のとおり、大阪支部では、大きく変化するであろう潮流を見極め、しっかりとした舵取りができるよう幹事及び会員の結束をはかっていきたいと考えています。

神戸支部

支部長　奥　正夫

同窓の皆様に神戸支部よりご挨拶申し上げます。

地球環境悪化の所為でしょうか、記録的な猛暑で、雨も南方のスコールのような降り方です。皆様ご健勝でお過ごしのことと思います。

さて神戸支部は例年通りの5月下旬の支部総会が開けず支部員諸兄姉の期待を裏切る状況を作り出しました。本会報上でもお詫び申し上げる次第です。秋、10月には是非とも開催のご案内に持って行きます。

神戸港では平成16年前後にポートアイランドのフルコン船用のガントリー・クレーンを殆ど撤去してしまい、往時の賑わいは目にできなくなって久しかったのですが、ここに若者が戻ってきました。つまりコンテナー・ヤードのあったpc-1から5番の辺りに神戸学院大学や神戸女子大学等、4つ大学が今年の初めに勢揃い。コンテナーが若者に変わって、ポート・アイランドを賑わせ始めています。

6月の本部総会では、今までにない活発な内容も盛られ、会長も若手へのバトンタッチがなされました。前会長の落合弘明先輩・名誉教授には永年のご活躍に深甚の感謝の意を捧げる次第です。母校が抱える国立高専の合併問題も新会長を始めとして、4,000の同窓が一丸となって支え、歴史と伝統を誇る「鳥羽商船学校」の意地を見せつけたいものです。

西日本支部

支部長　福岡健彦

毎日暑い日が続いております。同窓会会員の皆様如何お過しでしょうか、お伺い申し上げます。

去る6月10日、母校で開催された総会に於いて辻新会長が選任されました。

永年同窓会発展に貢献され、多大の功績を残された落合前会長に敬意を表し、心から感謝申し上げます。

総会の席上での新会長の就任挨拶の中で、またその後の理事会で今後の同窓会の運営方針、構想が示されました。

その一つに、従来本部では行っていた業務のうち支部で出来る事は支部で行い、本部との連携を密にしながら主体性を支部に移して行くという事がありました。

またそれに伴って支部所掌の地域を見直し、会員全員が漏れなくどこかの支部に所属するという事も考えられております。

これを受けて九州支部では、九州と神戸の中間にある中国地方の一部と四国を九州支部に編入する事を検討しております。

所帯の小さい九州支部にとっては、一人でも多くの会員が増え、より一層親睦を深める事が出来ればと考えます。当然当該地域に在住の会員の同意、支部名称の変更も必要になります。

もう一つは工業系学科の卒業生への対応があります。現在九州支部には一人だけですが、将来は、同窓会会員の大半が工業系学科の卒業生になる事は間違いなく、学校の統合問題をも見据えた対応が必要と考えます。

今年度の九州支部総会は、10月13、14日に懇親会を兼ねて、福岡県の原鶴温泉で計画しております。

伊勢志摩支部

支部長　古川昭一

同窓の皆さん、初めて支部便りを寄せることになりました。

この夏は余りの暑さに閉口しましたが、皆さんお元気に活躍の事と思います。さて今回の会長交代及び組織変更に伴い、当支部も実体を伴う支部となり、どうするか戸惑いを隠せないところですが、支部役員の紹介、同窓会員の構成の紹介等記します。今後の支部活動・支部交流会等どの様に進めるか、何せ会員数が膨大のようで手付かずの状態です。

今回の同窓会組織の変更、活動主体の変更で各支部がその地域に合った活動を主体的に行うことに変わりました。よって伊勢志摩支部も三重県松阪市以南の区域が設定されました。当然学校の地元として、同窓会が応援すべきことには本部事務局と合同で当たることになります。

一、現在の支部役員は、

支部長	古川　昭一	(S30E)
副支部長	岡本　楠清	(S47E)
同上	橋本　晴行	(S48E)
理事	内山　善勝	(S48E)
同上	中村　俊輔	(S53E)
同上	上村　健太	(S63E)

以上の6名で構成、皆さん忙しい中ご協力頂くことになりました。

あくまでも暫定的な構成で最終的には後、プラス10名程度は必要と思っています、又現在は両工学系からの理事が居ないので選出する必要があります。前本部理事に工学系の2名の方が〈出江幸重(H3M)・江崎修央(H4M)〉選出されていましたので、これからもご協力を貰えるように依頼したいと思っていますが、働きかけはこれからです。

二、伊勢志摩支部の同窓会員の構成状態は、平成17年版同窓会員名簿から当該地区に住所のある方を、在校生

も含めて集計したところ、概ね下記のようです。

航海科	179名	現在は両工学系がもっと増員していると思う。
機関科	318名	
電子機械工学科	466名	
制御情報工学科	508名	
合計	1,471名	

何とも膨大な人数で或る事が判りました。また名簿を見ていると両工学系の卒業生は伊勢志摩を中心に増加することが判ります。一方、商船学科系の卒業生は、地元を離れる或は他の地域からの方も来ており、あまり増える様子は見られません。

三、今年の支部活動の予定は、

9月19日　商船学科卒業式　出席。

11月4日　海学祭　応援。

時期未定　支部役員会

以上で支部便りを終わります。何かありましたら古川或は支部役員にご連絡ください。

古川宛先　メール s-furukw@lemon.plala.or.jp

TEL 0598-21-4629

クラス会

昭和一八年卒　一八会

代表者S18N・落合好明氏が平成一九年度同窓会総会に出席され、懇親会の席上で「一八会」の解散を期にシンボルであるクラス会旗（額縁に装丁）と金一八万円を同窓会に寄贈されました。

以下に解散宣言を掲載します。

S18N　落合好明

解散宣言

思い起せば、昭和18年3月、桜咲き乱れる母校を航海科57名、機関科44名、合計101名が卒業した。とき、大平洋戦争の真っ只中で、卒業生諸君の巣立ちはまさに壮絶なる雄姿であった。

一同、これを機会に”互いに手を取合い”そして”互いに助け合う”ことを誓い、クラス会を結成し、「一八会」と命名し、その「旗印」として、母校の「校章」を拝借することとした。

その後、「戦中」、「戦後」の混乱期を除き、関東、中部、関西と幹事を輪番制として、年一度のクラス会を各地で開催し、「旗印」のもと、大いに友情を深めた。その数、実に50有余回に及んだ。

今日では、数多く友を鬼籍に送り残念の極み、唯々ご冥福を祈ると共に、生存者として”生きる喜び”を深謝する日々が続いている。

齢80路の坂を迎えた会員一同、これを機会に思い出尽きない母校及び同窓会に感謝の意をこめて、「一八会」のシンボルである、クラス会旗を母校に納め、残金を同窓会に寄付することとした。

母校「鳥羽商船高等専門学校」及び「鳥羽商船同窓会」のさらなる発展とその栄光を一同心より祈念する次第である。最後に、「一八会万歳」を唱えクラス会を解散する。

S52卒　高専6期生 卒業30周年記念同窓会

幹事　N科　黒崎雅彦

E科　加塚伸吾

去る、4月21日(土)、豊橋市神野埠頭に隣接する「ホテルシーパレスリゾート」において、高専6期生の卒業30周年を記念する同窓会が開催されました。

当日は、関東・関西方面からそれぞれN科12名、E科21名、計33名の同窓生が参加し、また、恩師である舟橋教官、斉藤教官にも遠路はるばるご臨席の栄を賜りました。

我々6期生は、昨年6月にも16名の有志が母校に集い、旧交を深めたばかりでしたが、本年は卒業30周年の記念と50歳を迎えた節目の年であるということもあり、盛大な同窓会を催すことが企画され、名古屋地区在住の有志が幹事を務めることとなりました。

参加者の中には、卒業以来30年ぶりに再会する者も多く、卒業当時と変わらぬ風貌の者もあれば、当事の面影を殆ど留めず顔と名前が一致しない者ありと、時の経つのも忘れ寮生活の思い出話に花が咲き、全員が30年前にタイムスリップした楽しい一夜を過ごすことができ、来年も同じメンバーでの再会を誓い合いました。

最後に、ご多忙の中、遠路よりご参席を快諾いただいた舟橋先生、斉藤先生に改めて御礼申し上げるとともに、不参加ながら赴任先の沖縄より、わざわざ大瓶入りの泡盛を会場に配送いただいたN科戸崎満君のご配慮に対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

学校だより

平成18年12月～平成19年８月

S39N　中村武史

◎体育大会

○１月12･13日に岐阜県高山市朴の木平スキー場において第56回全国高等学校スキー大会三重県予選会、第62回冬期国体三重県予選が行われました。

本校Ｉ３・上村せり奈さんがアルペン競技（大回転、回転）に出場し、共に１位となり、２月に富山県のたいらスキー場で行われた全国高校総体（インターハイ）と冬季国体へ出場しました。結果は、３年連続出場のインターハイの大回転競技で85位となりました。

落合会長から出場を祝し、褒賞金5,000円が授与されました。

○第45回東海地区国立高専体育大会は、６月30日(土)～７月１日(日)、７月７日(土)～８日(日)、14日(土)～15日(日)に種目別に各高専地区で開催されました。

結果は、団体の部でバトミントン男子が２位のみの寂しい成績でした。

個人の部では、次の学生が好成績を収め、その中で３名の学生が８月に開催された全国大会に出場しました。

・水泳200m背泳ぎ･100m背泳ぎ１位
　Ｓ１　田中将太郎
・100m自由形１位
　Ｉ３　中尾　知加
・バトミントン女子シングルス２位
　Ｉ５　久保　静佳
・陸上5000m１位・1500m２位
　Ｉ４　山下　宗高
・男子４×400mR２位
　Ｉ５　河原　一正　　Ｉ３　山岡　卓弥
　Ｓ５　森田　竜矢　　Ｉ４　山下　宗高

全国大会に出場した田中・中尾・山下の３名に対し、辻同窓会長から金5,000円の褒賞が授与されました。

○第42回全国商船高専漕艇大会は、７月20日(金)～21日(土)、７年振りに本校主催で開催されました。

池の浦湾で開催されたカッター競技では、本校カッター部は三連覇の後、昨年広島商船に奪われた優勝旗を見事に取り戻しました。

津市の伊勢湾海洋スポーツセンターで行われたヨット競技は、残念ながら４位に終わりました。

○第42回全国高専体育大会は、８月に種目別に各地で開催され、先に述べた３名が出場しました。

結果は、陸上男子5000m決勝でＩ４・山下宗高が４位の好成績を出しました。水泳のＳ１・田中将太郎とＩ３・中尾知加は決勝進出ならず、予選落ちの結果でした。

○ヨットの三重県国体予選が６月３日、津ヨットハーバーで開催され、FJ級出場のＭ３・砂原崇志、Ｓ２・竹内星弥組が優勝し、９月29日～10月２日に秋田県で開催される第62回国体の少年男子SS級に出場することになりました。出場を祝い、辻同窓会長から２名に金5,000円の褒賞金が授与されました。

◎留学生交流会

12月24日(日)～26日(火)、東海地区５高専に在学中の外国人留学生が一堂に会し、各々の自国の状況、在留中の勉学・生活状況等について情報交換を行うと共に、スキーを通じてお互いの理解を深め、今後の留学生活に役立てることを目的として、高山市での交流会が実施されました。

本校からは５名の留学生が参加し、スキーの他、近隣の歴史的施設を訪問し、日本の歴史・文化に対する理解を深めました。

◎講演会

○１月17日(水)、講師に笠井美孝先生（笠井国際特許・商標事務所長・弁理士）をお招きして、３・４年生を対象に「私たちの暮らしと知的財産」の講演をしていただきました。

○３月２日(金)、講師に「おしごと広場みえ」(三重県生活部雇用･能力開発室)の和田悟･橋本雅恵両先生をお招きして、「面接試験の心構えについて」就職指導講演会をしていただきました。4年生の各学科の代表者一名が模擬面接を受けて講評していただきました。

○６月20日(水)、春季講演会として、本校の学生相談室カウンセラーの宗田美名子先生に、1･2年生を対象に「人生の選択～人とのかかわりの中で～」の演題で講演していただきました。

◎リーダーストレーニング

１月20日(土)～21日(日)、津市の美杉ビレッジにおいて、学生会より21名、クラブ代表25名、計46名の学生と、教職員５名が参加して行われました。

初日午後は、橋爪教員に「リーダーのための護身術講座」をしていただき、夜は学生会とクラブ代表に分かれての討論、２日目は「手作りピザ作り教室」に全員が参加してピザ職人の技を競いました。

◎鳥羽市の防災訓練への参加

２月17日(土)、鳥羽市千賀町(的矢湾)で開催された鳥羽市総合防災訓練に、昨年９月、市との災害協力協定を締結した本校の練習船「鳥羽丸」が参加しました。

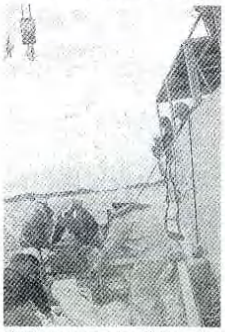
訓練には、山田校長はじめ本校の教職員の他に市消防本部や地域の自主防災会など260名が参加、「鳥羽丸」は沖合1.2kmまで乾パンなどの生活物資を搬送しました。

(以下読売新聞掲載記事)

商船高専の練習船参加　鳥羽市総合防災訓練

東海、東南海・南海地震を想定した鳥羽市総合防災訓練が17日、同市千賀町であり、昨年９月、市との災害時協力協定を締結した鳥羽商船高等専門学校の練習船・鳥羽丸(244トン)や山田猛敏校長ら職員が初参加した。

訓練には市消防本部や地域の自主防災会など15団体260人が参加。震度７の地震が発生、大津波警報が発令され、道路や堤防、家屋などに大きな被害が出たとの想定で始まった。


練習船から下ろされた物資を受け取る鳥羽市職員

サイレンが鳴ると住民は高台に避難し、自主防災会は防潮堤を閉じるなどした。鳥羽丸は沖合1.2キロまで生活物資を搬送し、地元の小型船に引き渡した。市消防本部が新しく購入したエアテントを使っての応急手当訓練などもあり、真剣な表情で取り組んでいた。

◎認証評価を無事クリヤー

平成18年度に本校は、独立行政法人大学評価・学位

授与機構の認証評価を受け、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、一定のレベルに達しているという評価を受けることができました。まずは一安心といったところです。

◎入学試験

平成19年度新入生の入学学力検査が、２月18日(日)、本校、東京、名古屋、大阪の四ケ所で実施されました。

今年の志願者数は、少子化を反映してか昨年より51名減少して280名となりました。さらに、試験当日に59名の欠席者があり、受験者数は221名となりました。

１月31日（水）に、推薦入学合格者52名が決定しているので、残り68名が学力入学することになります。

◎卒業式

３月５日(月)、平成18年度M・I科卒業証書授与式が、第２体育館で挙行され、M科36名、I科34名が山田校長から卒業証書を手渡されました。

今年も、工業系卒業生の就職状況は良好で、ほぼ全員が希望の企業に就職できました。

大学３年への編入学は、M科５名、I科１名で、本校専攻科への進学はM科６名、I科３名となりました。

◎専攻科修了式

３月26日(月)、初の専攻科（生産システム工学専攻）終了証書授与式が、竣工なった専攻科棟のマルチメディア室で行われ、修了生11名が山田校長から終了証書を手渡されました。

５名が名古屋工業大学、三重大学等の大学院に入学することになりました。

◎帆船「あこがれ」での母校PR

少子化時代の到来で入学生募集に務めていますが、帆船「あこがれ」の船長がS49N・瀬川彰彦氏であることから、大阪港・名古屋港での同船の一般公開時、訪船客に本校の学校案内パンフレットを配布していただくことになりました。瀬川船長と「あこがれ」の所属する（財）大阪港振興協会にお礼申し上げます。

◎新任教員と退職教員

○新任教員

・清田公保教員（I科教授）

昭和61年３月、豊橋技術科学大学工学部を卒業後、母校の熊本電波工業高等専門学校電波通信学科の助手として採用され、平成18年１月、情報通信学科の教授。

平成19年４月から１年間、Ｉ科江崎准教授と共同研究を行う目的でＩ科教授として本校に就任。

・中平　希教員（G科准教授）

平成16年３月、広島大学大学院文学研究科博士課程後期を単位取得。以後、イタリア国立ヴェネツィア大学哲学・文学部に留学後、広島文化短期大学・鈴峯女子短期大学の非常勤講師を経て、平成18年４月、津山工業高等専門学校の講師に採用され、平成19年４月から本校一般教育科准教授として就任。

・溝口沙織技術職員

平成17年３月、本校制御情報工学科を卒業後、平成19年３月本校の専攻科・生産システム工学専攻を終了。同年４月から技術センターの技術職員として就任。

○退職教員

・大岩　紘教員（Ｉ科教授）

昭和41年９月神戸商船大学商船学部機関科を卒業後、本校教諭として就任され、高専昇格後は機関学科で主に情報を担当。昭和63年、学科改組で誕生した制御情報工学科に配置換えとなり、平成７年４月に教授に昇任。平成９年から２年間、寮務主事の要職を兼務され、平成19年３月に定年退職。

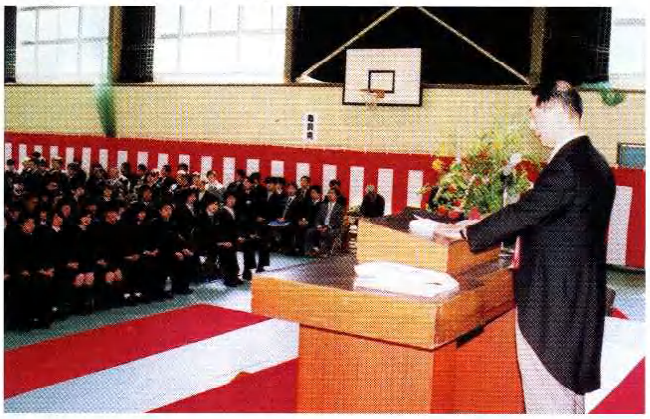
本校在職期間40年に亘りますが、本年名誉教授の称号を授与されました。

◎入学式

４月６日(金)、留学生入学式が校長室で行われました。

ベトナムからファム ホアン フィ君がM科３年に入学しました。

４月10日(火)、入学式が第２体育館で挙行され、S科に36名（うち女子１名）、M科に42名（うち女子３名）Ｉ科に37名（うち女子14名）の計115名の新入生と、専攻科・生産システム工学専攻に11名（うち女子１名）の新入生を迎えました。



◎新入生オリエンテーション

４月26日(木)、27日(金)の両日、昨年同様奈良県の国立曽爾青少年自然の家で、新入生113名と教職員14名が参加して開催されました。

目的は、高専生としての自覚を持つ、集団行動を身につける、新しい友人をつくるの３つで、初日は山田校長が校祖近藤真琴先生に関する講話をされ、２日目は学生主事が鳥羽商船で生き残るための話などもしました。

◎体育祭

５月16日(水)、M５・小田大樹実行委員長の下、多くの実行委員が企画した体育祭が本校グラウンドで行われ、11種目の団体競技と４種目の個人競技を学生は大いに楽しみ、親睦を深めることができました。

◎クリーンキャンパス活動

５月21日(日)、同窓会落合会長が手配された済美学

園による近藤翁記念碑周辺の除草が行われました。
また、5月18日(金)の午後、教職員による、校内一円の除草作業が実施され、キャンパスは見違える程、綺麗になりました。
さらに、6月13日(水)、午後3時半から約1時間、1～3年の学生を教員が指導して、学内と周辺のゴミ拾いを実施しました。

◎施設・設備の拡充

・専攻科棟（4号館）が3月16日に竣工しました。
1号館西側に隣接して潮騒会館との間に3階建て、工費1億9,176万円で伊勢市の吉川建設(株)が施行しました。
1階には実験室2、学生研究室2、2階には講義室2、ゼミ室2、3階には90名収容のマルチメディア室を設け、エレベーター付きでバリアフリーが考慮されています。
専攻科の教育・研究に多いに役立てられ、その発展に寄与することが期待されています。

・図書館改修工事が3月23日に竣工しました。
バリアフリー対策として、スロープ、身障者トイレ、階段昇降機を設置したもので、公募型指名競争で鳥羽市の村瀬建設(株)が1,617万円で受注しました。
・荒天航泊実験棟外部改修工事が3月23日に完了しました。老朽化の改善工事で、外部建具のサッシ、シャッターの取替工事を同じく村瀬建設(株)が1,024万円で施行しました。
・1号館空調設備工事が3月28日に竣工しました。教室の環境改善として、ガスヒートポンプ空調機を設置しました。松阪市の富士電設備(株)が1,733万円で施行。
・学内LANシステムの全ての基幹ネットワーク機器を更新し、システムを二重化して安全なネットワーク運用を可能にする工事が、3月29日に完了しました。(株)アイ・シー・エスが1,449万円で施行しました。

◎カッター巡航

8月4日(土)～6日(月)にかけ、四日市港管理組合と同窓会四日市支部のご支援のもと、学生23名が参加して、「鳥羽丸」を母船として実施されました。
本年は、初日に例年行われてきた同窓会四日市支部会員宅へのホームステイは中止となりました。十数年に亘るご支援誠に有り難うございました。
また、同窓会四日市支部（支部長S37N・中澤昌信氏)、四日市海技専門協議会（会長S37N・石垣三郎氏)、H6N・H7N高橋夫妻、H9N・杉野隆徳氏、H16N・谷水孝之氏・(旧)荒木志帆夫妻から、多数のビール・ジュース・スポーツ飲料を贈呈していただいたことに、本紙面を借りて厚くお礼申し上げます。
5日(日)には、「四日市港まつり」のカッターレース大会への学生参加（本年は残念ながら3位）とお手伝い、展示コーナーへの本校出展、鳥羽丸一般公開（訪船者180名）と体験航海（午前と午後各1回で旅客合計126名乗船）を行い、海事思想の普及と本校の広報活動を行いました。

◎公開講座

本年も、次の公開講座が社会人・小中学生を対象に実施されました。
○表計算ソフト入門講座
7月9日(月)～11日(水)、一般社会人7名に、I科伊藤(立)・溝口・白石教員が指導。
○オープンキャンパス
7月26日(木)、8月21日(火)、10月13日(土)の3日間で、中学生合計30名に、M科水野・山下・古森・増山教員が指導。
○「AED講座、あなたは大切な人を救えますか？」
7月30日(月)、一般社会人・教員・中学生合計12名に、伊藤(政)・永野・瀬田・山田・重永・坂牧教員が指導。
○おもしろ理科実験
8月1日(水)、中学生21名に、G科富澤・澤田教員が指導。
○手作り太陽電池
7月31日(火)～8月1日(水)、中学生4名にM科水野教員が指導。
○みえアカデミックセミナー2007
8月1日(水)、一般社会人57名に、S科佐藤・石田・I科北原教員が三重県生涯学習センターで講演。
○レゴを用いたロボット実験
8月2日(木)～3日(金)、中学生11名に、I科北原・永野教員が指導。
○海洋体験教室
8月5日(日)、四日市港で鳥羽丸一般公開と体験航海を実施。参加一般市民は306名（内、体験航海乗船者は126名)。
○インターネット活用講座
8月23日(木)～24日(金)、中学生6名に、I科江崎・榎本教員が指導。
なお、10月以降には、次の公開講座の開催を予定しています。
○小学生のためのバレーボール教室〈10月15日(月)、22日(日)、29日(月)〉
○年賀状作成講座〈11月9日(金)、16日(金)〉
○ロボコンPR活動（来年3月）

◎大学編入学と本校専攻科入学

○平成20年度(平成20年4月編入学)、下記の大学の3年次に卒業生が進学することになりました。
豊橋技術科学大学（推薦）3名
岐阜大学工学部（推薦）2名
信州大学大学部（推薦）1名
筑波大学（学力）1名
○平成21年度大学3年次編入
神戸大学海事科学部（推薦）2名
東京海洋大学（推薦）1名
○平成20年度本校専攻科入学
生産システム工学（推薦）9名
海事システム学（推薦）1名

③ 支部活動費（全国8支部）―近日中に支給予定。本年度は会員1名200円を暫定措置として、現在作成中の各支部名簿の員数により支給しますが、支部に大小があり、会員の移動もあることから、1万円単位の繰上げ支給となります。活用方法は各支部判断で有効に活用してください。今後の支給方法は検討の余地があります。

特記事項：

事務局は「現金の取扱い」と「同窓会基金等の管理」を外部委託せずに直轄とし、保管は百五銀行の「貸し金庫」で、金庫への入出庫は複数の事務局員で行い、金庫の開閉を記録する。出納管理は会計処理ソフトを導入し、外部委託業者が記帳する等の厳しい管理体制を執ります。今後の検討課題はホームページの立上や会費納入方法となります。（NCT業務は委託内容だけでなく、習熟状況を見て業務範囲を広げる予定です）

事務連絡：

1．同窓会支部の管轄等
同窓会員は①から⑧の支部に所属し、支部長を中心に活動をする。

① 北海道・東北支部－支部長 桜井 明S24E（会員数82）
北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

② 関東支部－支部長 大橋秀章S49N（会員数952）
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県、静岡県（大井川以東）

③ 中部支部－支部長 菅沼 延之 S48N（会員数581）
富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、静岡県（大井川以西）

④ 四日市支部―支部長 中澤昌信S37N（会員数305）
三重県（津市以北―名張市を含む）

⑤ 伊勢志摩支部―支部長 古川昭一S30E（会員数1154）
三重県（松阪市以南―四日市支部以外の地区）

⑥ 大阪支部―支部長 藤本昌之S42N（会員数409）
滋賀県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府

⑦ 神戸支部－支部長 奥正夫S32N（会員数280）
兵庫県、岡山県

⑧ 西日本支部―支部長 福岡健彦S33N（会員数103）
鳥取県、島根県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

2．会費の納入方法―新方式が決定されるまで、現方式を踏襲する。

3．名簿管理（NCTが行う。各支部には支部名簿を支部長宛にCD又は書面で送付する）

① 郵便物の各会員宛の送付先は同窓会名簿記載住所とする。

② 名簿記載の住所職業等の変更は学校内の「同窓会本部事務局」宛とする。

③ 支部の再配置で、特定支部への所属希望は新名簿管理ソフト完了後に対応する（当分の間、支部対応となる）

4．本部宛書類送付先と電話番号等
〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1番1号
鳥羽商船高等専門学校内
鳥羽商船同窓会「本部事務局」
電話：0599－25－8000
金田 護 メールアドレス：m-kankan@zb.ztv.ne.jp
江崎隆夫 メールアドレス：tbyanmar@basil.ocn.ne.jp

5．出納管理―会計ソフト購入し、NCTが記帳代行。

6．慶弔関係（原則として、献花は行わない）
原則―慶弔電報は各支部対応
（事務局に連絡があった件は事務局対応する。）
発信者名：全て「鳥羽商船同窓会会長 辻 裕」とする。

7．行事予定―19年度の本部会議予定等（9月19日まで終了）
・6月10日理事会/総会
鳥羽―新会長選出
・7月21日理事会
名古屋―新体制による新方針の協議・決定
・9月19日卒業式
鳥羽―会長、副会長、地元支部
・11月4日支部長会
鳥羽―海学祭に併せ開催
・3月7日卒業式
鳥羽―会長、地元支部
・3月9日支部長会
関西―新体制による進捗状況確認
・6月8日理事会/総会
東京―新体制による初会合
備考：支部長会の構成は会長、副会長、支部長、事務局員とする。

8．外部行事等支援予定
・全国商船高等専門学校漕艇大会―30,000円
・商船学科・工業系学科の卒業式支援【2回】－100,000円/回－200,000円
・全国規模体育大会出場学生と学術コンテスト入賞者奨励金―5,000円/人
・母校近藤真琴先生記念碑周りの環境整備―30,000円/回―60,000円
・母校「海学祭」に協賛する

9．役員名簿（P11参照）

10．同封の会費納入状況表をご確認下さい。（終身会員様や故人の方に万が一誤送付された場合はご容赦下さい）
今回は全会員に会報を送付し、住所の確認（新管理ソフトに移行予定）を行いますので、変更の方は必ずお知らせ下さい。（会費の長期間未納の方は全額一括納入でなく一部の分割納入でも結構です）

11．予算は臨時理事会で承認済みの為、11月４日支部長会に執行予算（案）を議題として、上程する予定です。

以上 事務局 金田 護

11月４日は「海学祭」です。皆さんぜひご来場下さい。